

人口減少対策特別委員会 （2）社会減対策案

栗田英明

対策案1. 子どもたちの心に残る「ふるさと」づくり

すでに取り組んでいるが、なんといってもいつとき上越を離れた子どもたちも戻ってくる豊かな心づくりが必要である

対策案2. コンパクトシティの推進

都市機能を集中し、賑わいのあるまちをつくることは、住みやすい居住空間を作ることでもある。これが定住につながる。

決して郊外地区に住むことを否定したり、都市部に移転すべきと主張しているのではない。市外へ移住しなくても市内移転を薦めたい。

対策案3. 教育大学、看護大学があることを活かしていく

大学があることで全国から若者が集まってきていることを最大限活かさなくてはいけない。上越市が彼らにとっての第2のふるさととなる取組を検討する。

加えて、教育関連、看護関連の事業を拡大していき、彼らが上越に残れるようにしていくことも必要。

対策案4. スマート農業を推進して、若者たちに楽しい農業をやってもらう

農業は衰退産業でも3K産業でもない。夢のある産業であり、上越市の主産業でもある。移住・定住の両面で重要な政策となる。

対策案 5. 外国人生活者を受け入れられる生活環境をつくる

大規模工場の誘致を進めても地元の若者たちは働かない。ミスマッチとなる。コスト面でも工場側のメリットは小さい。それを補填するためには外国人労働者を就労させる必要がある。ポイントは彼らを労働者と考えてではなく、上越市に住む生活者として考えることである。

対策案 6. 都会的なセンスや娯楽も楽しめるまちをつくる

働くことと楽しむこと、ON と OFF により充実した人生が生きられるとするならば、働く場と楽しむ場がともに確保できる地域が選ばれる。上越市は海や山、自然があるので、都会的なセンスや娯楽も楽しめるまちをつくっていくことも必要。